

混和会とは、共に許し合いながら、他の人格を尊重し、共に生きる和の構築を目指す集いです。

ほとけの 混和会だより

平成三十年八月

東光院

仏の混和会

第135号



おどりの華

西日本豪雨の被災者様には謹みお見舞い申し上げます。

七月は各地で開花された蓮を見るのが出来ませんが、この蓮は私達の悟りの境地として尊んで居るので御座います。
蓮は清らかな清流では育たれません。むしろ水が淀み汚れた泥沼から力強く上を向いて芽を伸ばし清楚で清らかな大輪の華を咲かせます。
よって私達もこの蓮のように苦しみや悲しみ、そして貧困災害争い、このようなどるどるとした泥沼のような社会に於いても清らかな仏心の花を咲かす事が出来ませうように、そしてこの泥



沼のような社会を力強く生き抜く経験によって己の仏心の花を大きく育まれますようにと願い、この社会を生き抜く支えとし、励みとし、指針としているので御座います。
蓮の花言葉に「清らかな心」とか「神聖」そして物事に動じない君子を表して「沈着」などと言われております。
このような蓮の心を持った人々の住む社会が阿弥陀様のおられる極楽浄土で御座います。その阿弥陀さんのお使いとして私達の身近な処に居て下さる菩薩様が観音様です。
実は観音様自身も幼少の頃様々な苦しみや悲しみを経験されて、その経験の元に大いなる慈愛心を抱かれたのです。
ですから観音様は私達の迷いや苦しみが早く克服できるようにと、頭上に阿弥陀さんをおられるのです。



青蓮華

青色青光 黄色黄光

極楽浄土の蓮池には「青い蓮」「黄色い蓮」「赤色の蓮」「白色の蓮」それぞれの色がそれぞれに光り輝いていると言われております。
極楽浄土を記した阿弥陀経には「青色青光、黄色黄光、赤色赤光、白色白光」と書かれております。
これは私達に何を伝えようとしているかと申しますと「極楽浄土」いわゆる様々な迷いや苦しみを克服して安心に満たされる世界「心境」を会得するには、偽りの無い真の自己を見いだし己の色で輝けば良いんだよと言って下さっているのです。
たとえば青色を青年に喩えると青年は青年のまま光り輝くことが出来る。そして黄色をお年寄りに喩えるとお年寄りはお年寄りのまま光り輝くことが出来る。更に赤色を叡智能に優れた人と

し、白色を元々持って生まれた体や心に生涯を持った人などと私達自身を様々な蓮の色に喩えて、共に輝くことが出来ると言っているのです。
「私は私、ありのままの私で輝き」「貴方は貴方、ありのままの貴方で輝く」と言う事なのです。
他と比べること無く、あるがままの真の自己を見いだし、年老いているからとか、このような私だからなどと自らを卑しめ、ひくつにならずにそれぞれに、あるがままの私で輝く道を見いだす事が出来た時、真の道と大きな安心が抱けますよ。と言って下さっているのです。
金子みすゞさんも詩の中で「みんなちがってみんないい」と詠っています。
そして、横原敬之さんの詩をスマップが歌ってました。
No.1にならなくていい
もともと特別なオンリーワン
世界に一つだけの花、一人一人
ちがう種を持つその花をさかせることだけに一生懸命になればいいと言っています。
極楽浄土の蓮池に咲く花は私達そのものなのです。己の花は何色なのか、先ず己の花の色をしっかりと見極めたいもので御座います。そして、それぞれの花がそれぞれに光り輝き、共に讃え尊重し会える環境が出来よう、努めて参りたいと存じます。合掌
亮観拝



日本仏教に登場する仏様を、毎号少しずつご紹介。今回は天部の毘沙門天を紹介します。

● 天部 毘沙門天

四天王の紹介の際にも登場しました毘沙門天。帝釈天の配下であり、仏法を護る護法神とされている仏教の神様です。

また、「常に仏法を護り、よく説法を聞く天部の神様」と言うことから「多聞天」とも呼ばれています。

そんな毘沙門天の起源は「クベール」と言う名の古代インド神話に登場する北方を守護し、ヒマラヤの財宝を司る神様でした。

そのことから財神としての崇拜を受けるようになり、室町時代以降に七福神の一人に加えられたとも言われております。

そのため福の神と想像しがちですが、福の神としてよりも軍神として信仰される事が多かったようです。

有名な所ですと、聖徳太子が戦の前に毘沙門天に戦勝祈願したところ、毘沙門天が現れ秘法を授け戦に勝利したと言うことから始まり、足利尊氏や上杉謙信など名だたる武将が自らの守り本尊として深く信仰されました。

その中でも熱心な信仰心を持って

いたことで有名なのは上杉謙信です。上杉謙信は自らのお城に毘沙門天を祀るお堂を造り、出陣前には必ずお堂に籠もり祈願されたそう。戦に使われる戦旗には毘沙門天の「毘」の字が書かれた物を掲げておりました。更に上杉謙信自身が毘沙門天の生まれ変わりであると信じ、家臣にも「我を毘沙門天と思え。」と言った程、毘沙門天に深く信仰されていたようです。

また、神様の多くには「使い」とされる動物がいることが多いのですが、毘沙門天の場合「ムカデ」が使いとされており。なぜ昆虫が神様の使いであるのか明確な言われは解明されておられません。ムカデは決して後退せず、真っ直ぐ前にしか進まないと言う事から願掛けも込めて、武器や甲冑に毘沙門天の代わりとしてムカデを取り付ける武将もいたようです。

そんな毘沙門天、よく見ますとお腹の所に鬼の顔が付いておられます。この鬼には名前が有り、「天邪鬼」と言います。ひねくれ者を指す呼び名「あまのじゃく」はこのお腹の鬼の名前から来ているそうです。



亮澄拝

京都府鞍馬寺
「鞍馬山曼荼羅図」

ジャガイモ掘りが行われましただ



今年梅雨明けが早く夏本番の到来を前にして連日猛暑が続いております。皆様におかれましてはいかがが過ぎでしょうか。

さて、東光院では先日恒例のジャガイモ掘りが行われました。私自身は深大寺の大施餓鬼法要と日程が重なるためここ数年は参加出来ておりませんが、初夏の青空の元に季節の実りを収穫し汗を流されたことと思えます。ご参加いただきました皆様にはこの場をお借りして御礼申し上げます。



切手を頂きました

先日、ある方より故人が収集していた記念切手を寺報発送の際にご活用していただければと、たくさんの方の手を頂戴致しました。

素人考えでは今では手に入らない切手、どこかもったいないのでは：

と思ってしまう面もあるのですが、託していただいた方の意思を尊重し活用させていただいております。これまでも封筒や切手を御奉納いただく事はたびたび有り、その都度お便りの発送に役立たせていただけてきました。普段はあまり気にすることのないお手元の封筒の切手、今一度懐かしんでいただければ幸いです。

お盆に向けて



東京盆にあたるお宅には七月中旬すでにお参りに伺わせていただきましたが、今年もお盆・施餓鬼の季節を迎えることとなりました。地方では主に八月の盛夏の内にお盆を迎えるわけですが、お参りにあたっては親切に迎えてくださる方や、一年ぶりにお会いする方など、私にとっては皆様とのお縁を感じて人の優しさを教わる季節でもあります。

お盆は、旅立たれた大切な方を身近に感じることが出来る時期でございます。一年に一度の風習ですから、



仏壇の掃除やお供え物を用意して、ご家族親戚、皆様で故人の菩提を祈って手を合わせていただければ幸いです。 亮敬拝